



校内研だより



2023. 10. 20 文責 ○○

【高学年ブロック：5年1組(○○教諭)理科「流れる水のはたらきと土地の変化」研究協議のまとめ】

◎児童の考えを事前に見取っていたので、グループ分けの視点の準備をしたり、意図的指名をしたりすることができた。

◎確認を取りながら、児童の言葉でまとめていた。

△短冊の数が多く、黒板がいっぱいになってしまったため、視覚的にわかりやすいグループ分けができなかった。ジャムボードの方が見やすい？

△教師の出場が多かった。児童がグループ分けを考えても良かったのではないかな。

△児童の反応・考えの違いを見逃さずに取り上げられると「確かめてみよう！」という気持ちにつながる。

△何のための活動なのか指導者も児童も捉えきれていなかった。

【次回につなげたいこと】

- ① 次の授業で何をするのか児童が見えているようにする。(目的の明確化)

【推進委員会(10月19日)で話し合ったこと】

① 座席表の作成について

- ・ 座席表には、「前時までの様子」「手立て」「(本時に)目指す姿」の3点を必ず記入して欲しい。
- ・ 上記3点を記入するのは、全員でなく指導者が選んだ抽出児数名で良い。
- ・ 校内共有＞校内研究＞指導案・座席表の中に元枠がある。

② 指導助言者(○○先生)に質問したいこと募集中

- ・ 次回の全体会(11月15日)で、○○先生にお話ししていただきたいことを募集している。
⇒各ブロックで集約して校内共有内のWordへ入力。
- ・ 今後の授業研究に関する個別相談も気軽にすることができる。資料を沢山いただけるのでお勧め。

《校長先生より》

○「教材」と「単元」の言葉の使い分けをしっかりしよう

- ・ 「教材」…「やまなし」「くじらぐも」など単元に含まれる教材の題名
- ・ 「単元」…児童の学習過程における学習活動の一連の「まとめり」

○「～させる」は協議の中でも使わないようにしよう

- ・ 指導案の中で「児童に～させる」という表現は使わないようにしていると思う。それは、指導観が児童と同じ目線になる効果的な手段。後期は、協議の会話の中でも職員が使っていないか意識していくようにしよう。

